

家畜衛生だより

埼玉県中央家畜保健衛生所
電話：048-663-3071
緊急：090-2757-1650
Fax：048-666-8731
メール：m633071@pref.saitama.lg.jp

家畜伝染病防疫対策の強化を！

旧正月を含めた連休の期間（R8年2月15日～2月23日）は海外渡航者や物流量が増加するため、家畜伝染病の侵入リスクが高まります。

韓国では、1月30日に口蹄疫、2月12日にアフリカ豚熱の発生がありました。

1 海外渡航の自粛等

- 口蹄疫やアフリカ豚熱等の発生地域等への不要不急の渡航を自粛。
- 外国人従業員を受け入れている場合、日本への持ち込みが禁止されている肉製品等を持ち込まないように周知。

2 農場での病原体侵入防止対策の徹底

- 農場の飼養衛生管理区域に立ち入るものの消毒を徹底
- 衛生管理区域への立入制限
- 野生動物の侵入防止のための防護柵や防鳥ネット、壁や天井を再点検し、不備あれば修繕

3 家畜の健康観察・異状が見られたら早期通報の徹底

- 口蹄疫、アフリカ豚熱等の特定症状について知っておきましょう
- 特定症状の疑いある場合は、速やかに中央家保に連絡をお願いします。

埼玉県中央家畜保健衛生所（さいたま市北区别所町 107-1）

TEL: 048-663-3071

（24時間、土日祝日も受付）



A型口蹄疫ウイルスの感染実験での病態

O型に加えて、A型の口蹄疫が、韓国、中国、東南アジア等で発生しており、それぞれ我が国への侵入リスクが高まっている。



牛及び豚で近年タイで分離されたA型口蹄疫ウイルスの感染実験を実施し、臨床症状やウイルス排せつ状況を確認。

* 使用ウイルス A/Thai/46-1/2015
(本年2月に韓国で発生したウイルスと同じポタイプ・系統)

※2000年、2010年の日本における口蹄疫の発生は全てO型によるもの

牛の病態

- ・口唇や蹄の趾間に水疱形成
- ・感染初期から、唾液から多量のウイルスを排せつ
- ・発熱・流涎のない個体もいたので注意



豚の病態

- ・強い水疱病変が発現
- ・感染初期から、唾液や蹄の水疱から非常に多量のウイルスを排せつ



今回の感染実験では、牛では水疱は趾間に見られ確認が難しく注意が必要。牛でのウイルス排せつ量や、豚での症状とウイルス排せつ量は典型的。

⇒ **牛では、1頭のみに着目すると見落とすおそれがあるため、流涎する個体が多い、症状が急速に広がるなど、群としての異状の有無を確認することが重要。**

注: 7つある口蹄疫の血清型のうち、東アジアで問題とされている口蹄疫の血清型はO型、A型、Asia1型の3つ。

平成28年度戦略的監視・診断体制整備推進事業成果
(農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究部門)